

令和6年度（2024年度）まちづくり協働推進事業二次審査会記録

- 1 日 時 令和6年（2024年）8月15日（木）
午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 場 所 市民活動センター大会議室（ソラト太田川3階）
- 3 出席者 日本福祉大学国際学部 特任教授 千頭 聡
Nagoya コミュニティ研究所 代表 水野 真由美
特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ 研究員 齋藤 雅治
総務部長 西山 聖治
市民福祉部長 植松 幹景
教育部長 小島 久和
- 4 事務局出席者
市民協働課 課長 仙敷 元
〃 統括主任 岩間 貴司
〃 主任 山田 浩策
〃 主事 阿知波 遼
- 5 事業担当課出席者
こども課 課長 永井 直子
〃 統括主任 堤 仁勇
〃 主任 田中 恒輝
- 6 公開・非公開の別
公開
- 7 傍聴者数
0人
- 8 審査会
 - (1) 開会あいさつ
 - (2) 審査員紹介
 - (3) 二次審査
ア 審査方法

事務局より説明

イ 公開質疑

育児休業中の子育て支援事業

・特定非営利活動法人Smiley Dreamより提案内容説明

(水野副委員長) 講座によっては夫婦を対象としているが、シングルマザーの方の参加も想定しているのか。また、参加する場合どのようにサポートするのか。

(団体) 募集の段階で、夫婦で参加する講座もあり、ある程度は対象者を絞っているが、シングルマザーの方が参加を希望される場合も、受け入れることはできる。当日は団体スタッフや、パートナーが来られなかった方と組んでいただく等で対応をしたい。

また、必要に応じて、民間や行政のサポートに繋げていく。

(齋藤委員) LINEグループについて、繋がりづくりができているか。また、運用はどのように想定しているのか。

(団体) 参加者の方の許可を得て団体が管理をする。これまでの事業の実績の中で15程度グループができており、そこから仲の良い方同士で繋がっている。LINEグループの過去の参加者が個人LINEで相談をしてることがあり、次の相談先を紹介することもあった。

(小島委員) 育休復帰の独自のツールとはどのようなものか。

(団体) ある企業の面談シートを基に作成し、パートナーの勤務体系、子どもの健康状態等、自分が勤務先に伝えておきたいことを記入できるような様式であり、勤務先との面談等に活用できるようになっている。コンプライアンスに関わる企業側から聞きづらいことも伝えることができる。

(西山委員) 過年度の事業において募集人数に対して参加者数の実績が50%程度だが、対象者が講座の存在を認識していない等、理由の分析はしているか。また、参加者を増やす取組みは何か考え

ているのか。

(団 体) コロナ禍前には参加者が多く人気の講座であった。今は時間等に余裕のある方でないと受講できなくなっているのかもしれない。会場を前期と後期で変えたり、1クール連続でなく単発でも受講できるようにする等の工夫をしている。

(植松委員) 職場復帰以外の問題について、どのように情報を収集しているのか。

(団 体) 託児スタッフから参加者に声掛けをし、子どもの発達や健康面について気になるような話を聞くことができれば行政等に繋げるサポート等を行っている。

(千頭委員長) 参加へのハードルが高いと感じる方々へ何かアピールしたいことはあるか。

(団 体) 働いていない方の場合、保育園等での子ども同士の繋がりですべて友達ができるが、働いている方は機会が少ないと思われることから、本講座を通して、子育て友達を作ってほしい。

・パパママ学級東海～産前産後ケア～より提案内容説明

(齋藤委員) 講座についてのアピールは何かあるのか。

(団 体) 育児や仕事等で、夫婦がお互いを気遣う余裕がないことがあると思うため、本講座では話し合いやワークの時間を設けている。夫婦で話し合う場として活用してほしい。

(齋藤委員) モンテッソーリクッキングについて詳しく聞きたい。

(団 体) 子どもと一緒に料理等家事をすることで、子どもを見ながら、家事ができ、子どもの教育にも繋がる。

(小島委員) 事業を実施するにあたり責任の所在はどのようなか。

(団 体) パパママ学級東海～産前産後ケア～の代表者が責任を持ち事業を実施する。

(水野副委員長) ホームページの作成について、色々な団体の活動を紹介し、対象者の選択肢を増やしたいとあるが、選択肢が増えすぎると混乱してしまうことがあるのではないかと。

(団 体) 例えば地域ごとに分けて紹介することも考えられる。また、選ぶことができないという方に対しては、市民活動センターに協力してもらいながら活動団体にスポットライトを当て、対象者に選んでもらえるようにしていきたい。

(植松委員) スケジュールについて、ホームページ作成の期間が短いのではないか。

(団 体) 5月にホームページを立ち上げ、ブラッシュアップしていくことを想定している。

(西山委員) 参加者募集について、広報誌以外に何か考えているのか。

(団 体) 団体の日頃の活動や、市から受託している他の事業を通してPRしていく。

(千頭委員長) 今後、団体としてはどのように活動していきたいのか。

(団 体) 活動に賛同していただける方に、団体に加入していただいて、活動スタッフを充実させていきたい。また、代表者は事業実施時にスタッフとして活動しなければならないことがあるので、スタッフを充実させて、代表者自身からもより多くの情報を発信していきたい。

・話してはなす「はなはな」より提案内容説明

(水野副委員長) 正会員が6名ということであるが、他に事業のサポートをお願いできる方はいるのか。

(団 体) サポートが必要な場合には、他の団体に協力を依頼する。

(水野副委員長) 団体の経理担当はいるのか。

(団 体) 代表者が務めている。

(植松委員) 講師として株式会社伊藤商店の人事の方に来ていただくということか。また、復職準備シートとはどのようなものなのか。

(団 体) 株式会社伊藤商店の社長とお話をしたことがあり、女性を起用してよかったこと等についてお話しをいただきたいと考えている。また、復職準備シートについては、子どもが病気になったときの対応や、夫婦でどのように働いていくのか等記載し

ていく様式で、詳細は今後検討していく。

(西山委員) 参加者募集は具体的にどのような方法を考えているのか。

(団体) 東海市が発行している子育て応援情報誌にチラシを折り込んだり、公共施設へチラシを配架したりすることを考えている。

(小島委員) 日頃の活動である、「紬の部屋」等はどのように運営しているのか。

(団体) 「紬の部屋」は子ども食堂的な運営で、参加された方に食事を提供しており、その際に1人500円を食材費として徴収している。また、市民館での活動の「遊びの広場」は、市民館の使用料として1人100円を徴収している。

(小島委員) 今回提出された決算書には「紬の部屋」等の活動に関する収支が記載されていないので、今後の活動のためにも、決算書に収入と支出を計上することが望ましいと思う。別の質問になるが、行政との繋がりはあるのか。

(団体) こども課や健康推進課等と繋がりがある。

(千頭委員長) 団体としては、今後どのようにになりたいのか。今回の事業に応募した動機も含めて教えていただきたい。

(団体) 「紬の部屋」という小規模な活動をしているので、団体の活動をもっと多くの方に知っていただき、子育てをする母親が安心できる場をより多くの方に提供していきたい。また、「誰かに話してスッキリする」ということが団体の目的であるため、育児休業中の子育て支援事業を通して実現したい。

ウ 集計・審査員協議

(4) 審査結果・発表

ア 審査結果

育児休業中の子育て支援事業

採択：特定非営利活動法人 SmileyDream

イ 講評

育児休業中の子育て支援事業

(特定非営利活動法人 SmileyDream)

- ・企画の内容は大変しっかりとしていた。
- ・過年度に実施した事業内容を振り返ったり、参加者のニーズをリサーチしたりすることで、よりブラッシュアップさせた企画にできるため、事業実施の際には期待している。
- ・広報以外にも、行政と協働する意味をもっとアピールできるとよりよい企画になったと思われる。

(パパママ学級東海～産前産後ケア～)

- ・企画の内容は非常に面白い。
- ・ホームページの作成の意義は分かるが、講座の実施が事業の本筋であるため、少し内容がずれていたようにも感じられた。
- ・事業を委託する側としては、受託者の遂行能力は重視する点であるため、団体としての規約がない点は、今後整理された方が良い。

(話してはなす「はなはな」)

- ・企画の内容は非常に評価が高かった。
- ・団体運営に関する収支の管理等、事業の遂行能力が十分に伝わらなかった。
- ・企画・運営・広報をどのように行うのかが十分に伝わらなかった。